

# 議会だより委員会

- 平成28年10月25日 町村議会広報研修会
- 平成28年10月26日 東京都西多摩郡 みずほまち 瑞穂町議会

読まれて伝わる議会広報

〔東京・砂防会館〕

町村議会広報研修会は全国45都道府県199町村議会が参加して行われた。

「分かりやすく、読まれて、伝わる」議会広報とは、どういったものなのか学んだ。

## 【手に取る＝読まれる】

- ・関心のある内容
- ・住民とのつながり感
- ・見てわかる紙面
- ・ニーズを尊重
- ・季節感を出す
- ・社会情勢に合っている
- ・マンネリ化防止
- ・写真が効果的

## 【親切な文章＝伝わる】

- ・短く書く
- ・言葉の重複を省く
- ・具体的に書く
- ・数字で表す
- ・句点「。」を増やす
- ・「絵」の浮かぶ文章
- ・わかりやすい言葉



砂防会館 研修風景

## 【考察】

広報の目的は、住民と議会との良好な関係づくりである。  
読み手の目線に立ち、読みたくなる広報にする事が大事である。  
そして、読み終えた後に「読んでよかった」と感じられる議会広報づくりをする必要性を感じた。

親しみやすく、読みやすい紙面づくり

〔瑞穂町〕

瑞穂町は人口33,822名、町内に「米軍横田基地」を有する。

議員数16名。うち議会広報編集委員は6名。

平成27年度「町村議会広報全国コンクール、編集・デザイン部門」で

「奨励賞」を受賞。

日程の都合で岐阜県養老町議会と合同視察となった。

【全面リニューアル】

・200号をきっかけに、内容を刷新。

・表紙をセピア色にすることで、人の表情が浮き彫りになる効果

・表紙の写真と連動した特集を掲載

・親しみのあるネーミング

・空白のスペースを作り、読みやすくする

・綴じ穴なし＝予算削減

・定例会をカレンダー式にして表示

## 【意識改革】

・刷新するために全議員の意識を変える努力

・特集のインタビューや撮影は、委員で行う

・住民のための広報

・住民参画を意識

・特集企画は困難を要するが、注目も集める

・議員個人の広報にしない

・改選、委員会変更時には臨時号を発行

・常に「これを読みたいと思うか」と考える



よりよい紙面を目指した意見交換

## 【考察】

常に「住民のための広報紙になっているか」といった視点を大事にし、柔軟性のある紙面づくりを行っていた。

現在本町では、「議会だより」に対するアンケートを実施中。

変えていく事を恐れず、住民のみなさまに愛され、より良い「議会だより」にしていきたいと感じた。

委員全員、気持ちを一つにして取り組んでいく。

(都築 清子 議員)



瑞穂町役場前(瑞穂町・養老町・阿久比町合同)